

令和5年度の全国及び埼玉県「学力・学習状況調査」の結果について

新座市立野寺小学校

本年度4・5月に実施した全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査の本校児童の結果について分析を行い、学力向上のための取組をまとめました。

全国学力・学習状況調査(対象：第6学年)

《調査の目的》

文部科学省が、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善策に役立てる。

《調査内容》

- 身に付けておかなければ後の学年の学習内容等に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践・評価・改善する力等に関わる内容等
- 生活習慣等についての質問

埼玉県学力・学習状況調査(対象：第4学年、第5学年、第6学年)

《調査の目的》

「学習した内容がしっかりと身に付いているか」という視点とともに、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えて、子供たち一人一人の学びや成長の姿を明らかにするとともに、子供たちの学力の伸びを経年の調査結果から把握する。

《調査内容》

- 国語算数生活習慣等についての質問

調査結果を踏まえた検証

- ◇正答率はこの学年においても、国、県、市の平均正答率と近似値であった。(全国・埼玉県)
- ◇国語では、「書くこと」に関する正答率が低かった。(全国)
- ◇算数では「図形」に関する正答率が低いことが分かった。(全国)
- ◇質問紙において「時刻を守る」ことができると回答した割合がどの学年でも9割を超えており、昨年度同学年よりも高くなっていた。また、「ていねいな言葉づかい」「やさしい言葉づかい」においても同様の傾向が見られた。(埼玉県)
- ◇学年が上がるにつれて、計算等の知識問題の正答率が下がっている。(埼玉県)
- ◇学年が上がるにつれて、文章の内容を理解することに課題がある。(埼玉県)
- ◇具体的な課題としてあがったのは以下の項目(埼玉県)

(4年生)

- ・辞書の正しい使い方。
- ・文を読み返し、より良い文にする。
- ・等分してできる部分の大きさを分数を用いて表す。
- ・正三角形の性質についての理解。

(5年生)

- ・登場人物の心情を捉える。登場人物の行動を読み取る。
- ・四則の混合した式や()を用いた式について正しく計算する
- ・数の相対的な大きさから小数をとらえる。
- ・式を用いて変化の関係をとらえる。

(6年生)

- ・文の構成を理解する
- ・登場人物の心情の具体的な内容を読み取る。
- ・伝えたいことが伝わるように資料の使い方を工夫する。
- ・異分母の分数の減法の計算。
- ・円グラフの見方についてと百分率についての理解。

本校の取り組み

上記検証やその他結果を踏まえた考察により、本校児童の傾向として「読むこと・思考における解答率が低い」「計算・漢字・語彙力等、基礎的な知識の定着が不十分」「学習の目的を考えながら取り組めていない児童が多い」といった課題が見られました。そこで、本校では

- ・学校全体で読書活動の推進をする。
- ・授業内で協働的な学びを推進する。
- ・AI教材を活用し、課題にあがった箇所を重点的に取り組む。

等の具体的な手立てを掲げ、今後の教育活動にあたることとする。